

第3学年

教科	課題分析	授業改善策
国語	(1)文章を書くことにおいて意欲的に取り組もうとする子供と苦手意識をもつ子供の差が大きい。 (2)2年生までの漢字の習得においてほとんどの子が概ねできている。 (3)漢字を覚えて書く能力が高い子供と低い子供の差を感じる。	(1)話型や句読点の指導を丁寧に行いながら、文章を書くことについて改善していく。 (2)その時々2年生までの漢字を活用し、学習の定着を図る。 (3)漢字の読みや形の指導で、漢字を覚えるための方法を多面的に行う。
社会	(1)学校の周りの様子について地図記号を用いてまとめたり、練馬区の様子について調べたことを白地図にまとめたりすることはほぼすべての子供が問題なく行うことができた。 (2)練馬区の主要な川や交差点、大通りなどを覚えることに苦戦している子供が多々見られた。 (3)学校の周りの様子や練馬区の様子について意欲的に調べようとする意欲をもっている子供が大半であり、その成果が評価テストに表れていた。	(1)写真やインタビュー資料などの読み取り方や取材の仕方について今後指導し、さまざまな調べ方の技能を身に付けさせるとともに、社会科で使う用語についてその意味を正しく理解できるようにする。 (2)単元計画を見通し、各時間の学習課題を明確にして授業を行う。 (3)各小単元の導入での学習問題づくりや学習計画づくりを丁寧に行い、子供が主体的に問題解決をしようとする意欲を喚起する。
算数	(1)全体的に簡単な計算問題や九九は定着してきているが、「時こくと時間のもとめ方を考えよう」では、時計の読み方につまずいてしまう子供も多く、個人差が見受けられた。 (2)題意を捉え、立式したり、図で表して説明したりすることが苦手な子供が数人いるが、問題解決に向かう主体性はとても高い。 (3)全体的に意欲的な子供が多く、集団で考える学習には積極的だが、練習問題には苦手意識のある子供が多く、取り組みに差が見られる。	(1)時計をどのように見ればよいかを理解させ、決められた時刻の何分前後の計算ができるようにする。 (2)立式だけの指導で終わらせてしまうことのないように、図を用いて式の意味を説明する過程を大切にして、根拠をもって立式できるよう指導する。 (3)子供の実態を把握し、習熟度別授業によって、個々の力に応じた練習問題や発展的な問題を作成する。
理科	(1)観察に際して、成長の様子を比べたり、考察したりしてまとめる力が弱い。 (2)実験・観察を通して、自然の事物・現象を比べ、同じところや違うところを見付けることは概ねできている。 (3)問題を見付け、予想し、解決方法を考え、検証するという問題解決の流れをよく理解し、主体的に学習しようとする子供が増えてきている。	(1)観察の前に色、形、大きさの3つの視点を再確認する。細かく観察できている子供のよい表現を提示する。 (2)子供の生活場面で見られる現象を教室内で再現したり、注目する点を事前にはっきりさせたりしてから実験するなど、疑問や気付きがもてるような工夫をし、子供が問題を身近な事として捉えられるようにする。 (3)学習を授業内に留めず、日常生活に生かすことができるような具体的な場면을問題に設定する。他教科においても問題解決学習の流れを作り、さらに定着させる。

音楽	(1)読譜や技能に個人差がある。リコーダーの運指は覚えたが、タンギングや音色など技能の習熟まで至っていない子供が多い。 (2)曲のよさや特徴に気付き、楽しみながら活動しているが、思いや意図をはっきりもちながら表現することがまだできていない。 (3)全体的に積極的に学習に取り組む子供が多い。器楽、特にリコーダーに苦手意識をもつ子供が若干数いる。	(1)意図的・継続的にリズム打ちやフラッシュカード等を使い、基礎的な力を付けていく。リコーダーは、範奏から音色のイメージをもたせるとともに運指のポイントを示し、徹底を図る。 (2)どのように表現するか思いや意図をもたせ、そのための方法を色々試し、全体で共有する。 (3)児童の実態に即した教材準備を行い、楽しみながら課題に取り組める学習の場の設定など、意欲を高められるようにする。
図画工作	(1)はさみは概ね正しく安全に使えているが、カッターナイフの扱いや、筆や絵具の扱いはまだ習熟していない。 (2)自分の作品の題名を逡巡なく付けられるなど、自分の表したいことについて豊かに発想や構想をしている。 (3)図工の学習は概ね好きであり、意欲的に取り組んでいる。	(1)紙工作や紙版画、ステンドグラスなどの題材を通してはさみやカッターナイフといった道具の扱いに習熟させる。また楽しく取り組みながら筆遣いに習熟できる題材を複数実施し、絵の具や筆に親しむ。 (2)身近な作品などからも見方が広げられるよう、鑑賞の機会や時間を十分確保する。 (3)子供目線に立った教材研究を行い、全ての子供が作り出す喜びを味わえるような題材準備を行う。
体育	(1)基本的な動きや技能に個人差が見られる。細かい動作が苦手な子供が多い。 (2)毎時間の自分のめあてを立てることはできているが、達成させるための工夫ができている子供は少ない。 (3)体を動かすことが好きな子供が多い。運動、特に水泳に苦手意識を強くもつ子供も若干数いる。	(1)運動に必要な動きや技能のポイントを確認し、それぞれにつながる運動を意図的に取り入れていく。 (2)運動のポイントと比べて、自分は何ができて、何ができていないのかを友達と見合って教え合うようにする。 (3)スモールステップで課題を設定したり、簡単な運動を導入したりすることで、意欲を高められるようにする。
外国語活動	(1)学校の外で学習している子供と、そうでない子供で差が見られるが、概ね学習内容を定着させることができている。 (2)日本語にはない発音を上手く発音することに苦手意識をもつ子供が多い。今まで学習した表現を使い、積極的にALTとコミュニケーションを図ろうとする子供も多くなる。 (3)全体的に積極的に学習に取り組む子供が多い。外国語活動の学習に自信のない子供は、途中で取り組みを諦めてしまう様子も見受けられる。	(1)毎回の学習を始める前に前回までの復習を取り入れ、学習内容の定着を図ることができるようにする。 (2)ALTを効果的に活用し、ネイティブの発音でたくさん練習を重ねることで外国語特有の音声を発音することができる活動を取り入れる。 (3)各単元のめあてを提示し、子供が見通しをもって学習することができるよう工夫する。子供が楽しく活動しながら外国語を学習できるような、効果的な学習活動を取り入れる。